

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ
基本・実施設計業務 設計候補者選定委員会

審 査 結 果 報 告 書

平成17年5月30日

沼津市長 齋藤 衛 様

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ
基本・実施設計業務 設計候補者選定委員会

委員長	長谷川	逸子
副委員長	平田	厚
委員	高橋	儀平
同	三谷	徹
同	清水	忠

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ基本・実施設計業務設計候補者選定委員会は、平成17年4月25日に第1回選定委員会を、同5月23日に第2回選定委員会をそれぞれ開催し、指名型プロポーザルにおける設計候補者の選定を行ったので、その選定結果、審査の経過及び審査の評価について下記のとおり報告します。

記

1 選定の結果

設計候補者 株式会社 久米設計 静岡事務所

2 審査経過

(1) 第1回選定委員会

ア 選定委員会に先だち、選定委員の互選により、選定委員長に長谷川逸子が選ばれ、選定委員長が副委員長に平田 厚を指名した。

イ プロポーザル実施要領に基づき実施手順を確認し、提出書類作成要領、ヒアリング要領及び評価基準を決定した。

(2) 審査準備と公開ヒヤリング

ア 審査の準備

指名した設計事業者のうち5月18日までに、8社から応募があった。技術提案書はすべて無記名とし、到着順に符号（A～H）が付され、選定委員には各設計事業者の名前が一切分からないよう配慮され、審査の公平が確保された。

イ 公開ヒヤリング（平成 17 年 5 月 23 日 於：沼津市民文化センター）

符号の順に、各設計事業者それぞれ 30 分の持ち時間（プレゼンテーション 10 分、質疑応答 20 分）でヒヤリングを行った。説明者は総括担当者、意匠主任担当者の 2 名とし、説明資料は、事前に提出された資料の範囲内とした。説明の際、会社名が一切わからないよう配慮され、また、自社のヒヤリング時間以外の会場への立ち入りを禁じ、審査の公平が確保された。

（3）第 2 回選定委員会

ヒヤリング終了後、次のような過程を経て設計候補者の選定が行われた。

- ① 各選定委員の専門分野における評価の着眼点について、意見を交換した。
- ② 各提案について選定委員間で自由に意見を交換し、提案への理解を深めた。
- ③ 審査の方法について検討し、議論に基づく消去法により、設計候補者をしばっていく方法が採用された。
- ④ それぞれの提案に、各選定委員が意見を述べ合い、各提案の特徴、問題点を抽出した。意見の出つくしたところで、この案は残したいと一人でも発言のあった案以外の案を除外した。その結果、A 案、B 案、H 案の 3 案に絞り込んだ。
- ⑤ 続いてこの 3 提案について改めて議論が交わされ、さらに 2 案に絞り込んだ結果、全員一致で A 案、B 案の 2 案が選出された。
- ⑥ 続いてこの 2 提案について改めて議論が交わされ、無記名投票が行われた。その結果、A 案 4 票、B 案 1 票となり、最終討議により、全員一致で A 案を提案した設計事業者を設計候補者とすることに決した。
- ⑦ A 案を設計候補者とするにあたり選定委員会としての意見が加えられた。

以上の決定後、各設計事業者名記入書在中の封筒を、選定委員全員の立会いのもと開封した。

結果は次のとおりである。

- A 提案 (株)久米設計 静岡事務所
- B 提案
- C 提案
- D 提案
- E 提案
- F 提案
- G 提案
- H 提案

3 審査評価

(1) 評価基準

ア 設計業務担当者の実績等に対する評価

- ・今回の設計業務のため、スタッフが適切に確保されているか。
- ・スタッフの過去の実績、経験はどうか。
- ・業務への取組意欲はあるか。

イ プロポーザルで求める技術提案書の内容及びヒアリング内容に対する評価

(ア) 提案の的確性について

- ・土地利用に関する提案
- ・ゾーニング（動線計画等）、空間構成に関する提案
- ・環境対策に関する提案
- ・ユニバーサルデザインに関する提案
- ・大規模災害時での施設活用に関する提案

(イ) 提案の創造性について

- ・意匠に関する提案
- ・景観形成に関する提案

(ウ) 提案の実現性について

- ・経済性（インシャル及びランニングコストの縮減等）に関する提案
- ・工法・素材に関する提案
- ・省資源、省エネルギーに関する提案

ウ 工程計画と技術者の延べ動員数に対する評価

- ・設計への市民参加に対応できる配慮が十分になされているか。
- ・工程計画が具体的かつ細やかであるか。
- ・工程と延べ動員数を比較し余裕のある計画であるか。

(2) 評価の着眼点

ア 「沼津市の地域福祉を加速させていく拠点」というコンセプトが理解されているか。

イ ソフトを伴って設計していく柔軟性と、熱意があるか。

ウ 省エネルギーとランニングコストの低減について、効果的な建築となっているか。

エ 狭あいな敷地の中で、緑やランドスケープを、人と人とのつながりに活用しようとしているか。

オ 外観が、学園通りとの調和と街並み形成に対し研究されているか。

カ 利用者（ボランティア、障害者、学生等）の視点で、アプローチやパーキングが工夫されているか。

(3) 各提案の評価

A 提案

- ・ 人の動線やコンセプトがコンパクトにまとまっていてわかりやすい。
- ・ ボランティア活動や市民の具体的な福祉活動の内容を吸収し、逆提案できる対応能力が期待できる。
- ・ 地域福祉活動室、障害者支援活動室、福祉ボランティア活動室が同一フロアにフリースペースで配置され、一体的な福祉活動を可能とする点が評価できる。
- ・ 外観は、西側ルーバーが多いのが気になるが、正面性にこだわらず、多様性がある点が評価できる。また、街区に対し素直でやさしく、やわらかい。街に対するボリューム構成もカジュアルな表情で、心地のする現代風な感じが良い。
- ・ 南側隣地建物との隙間を緑化ウォールにすることにより、うまく空間化している。
- ・ 西面の庇が、空調コストの低減に有効である。
- ・ 2階、3階のステップテラスや4階、5階の北側芝生広場など緑が効果的に配置しており、市民活動にもつながる可能性が評価できる。
- ・ 屋外機置場の位置の検討が必要である。
- ・ 夜間救急医療センターのロビーが狭く、再検討を要する。

B 提案

- ・ 人の動線や施設のコンセプトがコンパクトにまとまっていてわかりやすい。
- ・ ワークショップ等から提案されるソフト事業に対し、柔軟な対応など配慮が感じられる。
- ・ 地域福祉活動室、障害者支援活動室、福祉ボランティア活動室が同一フロアにフリースペースで配置され、一体的な福祉活動を可能とする点が評価できる。
- ・ 多目的ホール自体を吹き抜けにした点がおもしろく、可動間仕切りがイベント開催時等に有効で評価できるが、構造的には疑問が残る。
- ・ 外観は街区に対しデザインが良く、高い庇がスケール感を出し街並み形成に有効で、ローコストにもつながる点が評価できる。また、大きなケヤキによる緑化がすばらしい。
- ・ 南側隣地建物との隙間を救急車輛の通路とし、うまく空間化している。
- ・ 駐車場からのアプローチ、周遊デッキは評価できるが、1階の車動線は複雑で、採用できかねる。
- ・ 1階風除室については工夫が必要であり、屋外機置場の位置は検討が必要である。
- ・ 楕円形の階段室は、利用者には見えにくく、わかりにくい。

C 提 案

- ・ 敷地中央に建物を配置し、周辺の植栽で騒音等を緩和する工夫が評価できる。
- ・ 大屋根の矩形と建物全体のボリュームが学園通りにマッチしておらず、北側への日照も心配である。
- ・ 身障者用駐車台数は、ハートビル法上からも不足しており、利用者の想定が出来ていない。
- ・ 西側エントランスホール吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。

D 提 案

- ・ 大屋根が高すぎて、建物全体のボリュームが大きく、北側への日照も心配である。
- ・ 身障者用駐車台数が多く計画されていて評価できるが、車路を横切る人の動線に配慮が足りない。
- ・ 駐車場エレベーターが北端に一箇所では、利用者にたいへん不便であり、評価できない。
- ・ 間仕切りが引き戸で、広場型の自由な使い方ができる点が評価できる。
- ・ 西側階段吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。
- ・ 西側の縁側バルコニーや縁側空間が、気候風土に対する配慮を欠いている。

E 提 案

- ・ 北西角を広くとってある点は評価できるが、学園通り側に閉鎖的な外壁は、街区形成上好ましくない。
- ・ 北側の木製ルーバーが、シンボル化していて機能的でない。
- ・ 駐車場をビルトインすることで、コストの増大が懸念される。

F 提 案

- ・ 外観イメージ図の樹木をわざと消してあるが、建物をみせるために緑を消すという考え方は評価できない。
- ・ 外観イメージが公共建築的で、サインがなければ何の施設かわからないといった建物である。また、このサインが評価をさげている。

G 提 案

- ・ 南側の活用提案は評価できるが、広くはない敷地を2つのデザインで分割するように見える。

- ・ シェルターが大きな割に、吹き抜け部分の省エネのみ考慮し、全体に活用されていない。
- ・ ヒヤリング時に地域福祉活動室と福祉ボランティア活動室を3階に配置したコンセプトは評価できたが、2階南側のわいわいデッキを商業施設に隣接して設置している点は配慮を欠いている。

H 提 案

- ・ ワークショップ等から提案されるソフト事業に対し、柔軟な対応など配慮が感じられる。
- ・ 大屋根の矩形と建物全体のボリュームが学園通りにマッチしておらず、北側への日照も心配である。
- ・ 西側エントランスホール吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。
- ・ プレゼンターの福祉活動への熱意が感じられ、ヒヤリングでの評価は高い。
- ・ トイレが小さすぎて、利用者に不便となるのではないか。

4 A案に対する意見・要望

- (1) 全体の敷地構成が明確で動線も分かりやすい。また、各階平面は用途・機能ごと部屋を区分せず、利用者の主体性と弾力的な運営を創り出すためのオープンプランを採用しており、本施設の意向を汲んだものとして評価できる。

ただし、利用者自身の創造性が十分でないと本案の意図が崩れる危険もあり、このオープンプランを上手く柔軟に活用するアイデアを設計者側が積極的に提案し、市民に使い勝手がわからないままにならないよう（「未完な状態を残したまま」にならないよう）、以下の点に留意して責任のある設計をすること。

ア 可動式パーテーションや家具を設計提案し、個別ルームも設置するなど、市民の様々な活動（家族、高齢者、身障者、子どもまで）に応えられるよう工夫すること。

イ ボランティアをはじめとする市民の利用状況を具体的に把握し、空間構成（使い方）を複数提示すること。

ウ ワンルーム型に多い音響の問題（一般的問題だけでなくこの施設特有の相談内容の問題なども含め）についても対応すること。

- (2) 2階より上部は本施設独自の活動が見えやすいが、1階ロビーは機能オンリーで無個性に感じられる。接地階が一番重要となるので、1階でじかに具体的な活動が見えるようにすること。

当施設がボランティア活動の中心となるためには、市内各団体へのネットワークづくりなど市民や学生参加を促す必要があり、接地階は市民の情報ロビーでもあることから、もっと広々と積極的な使い方を検討すること。1階エレベーターの裏側（学園通りに面した方）の壁面も有効に活用したい。

- (3) ランドスケープについて多様な提案がされており、やわらかい建築になると期待している。ただし、少ないランニングコストの中でその魅力が失われてしまわないよう留意するとともに、メンテナンスについて市民の参画を検討すること。
- ア 外壁の堅ルーバーのデザインは今流行りではあるが、外観の工夫に先見性が求められる。特に南側の「スクリーン」は重要となるので、十分検討すること。
 - イ 学園通り側の高木植栽は、街路景観の代表となるようなランドスケープ意匠をすること。
 - ウ 南側のステップテラスや各階の小さな庭、北側の芝生広場や西側の街路樹などを建築と一体化させるとともに、これらが単なる緑化ではなく、本施設の自発的な活動を誘引するよう市民とよく相談すること。
 - エ 駐車場は緑地との混在を図り、環境との一体感を醸し出す工夫をすること。
- (4) 5階の機械室は西側に配置し、屋上南側を開放するとともに、ふれあい交流室を芝生広場と有機的につなぐ等、快適空間の形成に工夫をすること。